

部 会 報 告

コベルコ建機(株) 大久保事業所 見学会報告

機械部会 基礎工事用機械技術委員会

1. はじめに

機械部会の基礎工事用機械技術委員会では、年間行事として現場見学、工場見学を毎年実施している。今回、兵庫県明石市のコベルコ建機(株) 大久保事業所を見学したので紹介する。

参加者は事務局も含め9名であった。

2. 見学会スケジュール:令和元年6月5日(水)

- 13:30 : 西明石駅集合
 13:45 ~ 13:55 : 概要説明
 13:55 ~ 14:10 : ビデオ上映
 14:10 ~ 15:20 : 工場見学
 15:20 ~ 16:00 : 質疑応答
 16:30 : 西明石駅到着, 解散

3. 見学会内容

(1) 大久保事業所について

大久保事業所は1960年に設立され、主に移動式クレーン(タイヤ式、クローラ式)の開発、生産を行っている事業所である。現在の敷地面積は13万平米とこのことで、市街地にある工場としては大規模な工場だと感じた(写真-1)。

始めに、齋藤所長に概要を説明していただいた。大



写真-2 クローラクレーン

写真-3 テレスコピッククローラクレーン

1250t SL16000J-H (SHL仕様)
写真-4 クローラクレーン

写真-1 大久保事業所

久保事業所はクローラクレーン(写真-2)関係がメインの工場で、月産出荷台数は約40台で年間出荷台数は500台弱とのことである。その中で、約半数が海外へ輸出、残りの半数が国内向けとのことである。

国内向けの中でテレスコピッククローラクレーン(写真-3)の生産割合は、15%くらいとのことである。

商品ラインアップとしては、28機種で50t~1,250tクラス(写真-4)を生産している。

クレーン関係は基本的には受注生産で、受注から平均納期は約11ヶ月ということであり、多種多様な製品を短納期で製作されているという印象を受けた。



写真—5 ラフテレーンクレーン



写真—6 ラチスブームホイールクレーン

(2) 工場見学について

今回の工場見学の中でもラチスブームホイールクレーンに関する説明が大変興味深く感じた。個人的にはホイールクレーンは、自走が可能で、箱型ブームを搭載したラフテレーンクレーン（写真—5）しか知らなかったが、ラチスブームを搭載したラチスブームホイールクレーン（写真—6）を知ることができた。

最初は、ホイールクレーンでラチスブームというのはどんなメリットがあるのだろうかと感じていたが、機動性と吊り能力の向上で港湾向けであるという説明を聞き納得できた。

工場見学はクレーンの組立現場（写真—7）、製缶現場等を拝見したが、全ての現場で整理整頓が確実にされていた。工具、治具などの乱雑さがないことはもちろんであるが、部品も必要ときにアセンブリ作業場に搬入されるとのことで、組み立て待ちの余分な部品などが置かれていることは無かった。

また、ラチスブームの製缶現場ではロボットによるラチスブームの溶接システムを導入しており、生産性向上、溶接品質の安定化を狙っているとことを説明いただいた。



写真—7 クローラクレーン組立現場



写真—8 工場前集合写真

4. おわりに

最後にコベルコ建機大久保事業所の皆様には、当委員会の見学を快くお受けいただき、工場全般を丁寧に説明いただいたことに感謝し、厚く御礼申し上げます。

JCMA

【筆者紹介】

田中 祐介（たなか ゆうすけ）
三和機材㈱ 技術部
オーガー1グループ 部長代理、
（一社）日本建設機械施工協会
機械部会 基礎工専用機械技術委員会 委員

